

さわって楽しむために・鑑賞のポイント

柳原の手のあとを感じてみよう —作家の気持ちになる—

柳原は粘土を使って物のかたちを作る^{そぞう}塑造の技法で作品を作りました。いずれの作品も、もともとヘラややすりで粘土を^か掻き取り、指で整えながら作られています。彫刻に手をあてながら、柳原の手の動きに思いをはせてみましょう。

※粘土は^{こわ}壊れやすいため、粘土像は最終的にブロンズ（青銅）などの金属に^{ちゅうぞう}鑄造されます。
みなさんがさわっているのはブロンズ像です。

モデルの体の動きを感じてみよう —ねじれた動き—

柳原は、^{しょうがい}生涯にわたり、生命をいかに表現するかを追求した作家でした。学生時代にフランスの彫刻家ロダンの^{えいきょう}考えに影響を受けた柳原は、人が立ち、姿勢を変える時に、前後左右に体の重心が動くことにとりわけ関心を持っていました。柳原作品の人物像の多くが、^{らせん}螺旋のように体をねじらせたり、片足に重心をかけて傾いたりしているのはこのためです。作品を手で包み、この動きを感じてみましょう。

作風の変化を感じよう —かたち・表現—

柳原は若くして彫刻家として成功しましたが、^{さい}40歳ごろには制作に^{なや}悩むようになり、1953年から4年間、フランスに彫刻を学び直しに行きました。ここで柳原は、モデルを平面的に捉えるのではなく、^{とら}立体的に捉えようと思ったといいます。この結果、柳原は、細かいところまで目に見える通りに再現することをやめ、より簡単な形で^{ねこ}人や猫を表現するようになりました。作風の変化を、ぜひさわって感じてください。

特設コーナー「さわって楽しむ 柳原義達の作品」リーフレット

編集：三重県立美術館 高曾由子 橋本三奈 鈴木麻里子

発行：美術館のアクセシビリティ向上推進事業実行委員会 三重県立美術館

デザイン：桑田知明

印刷：サンメッセ株式会社

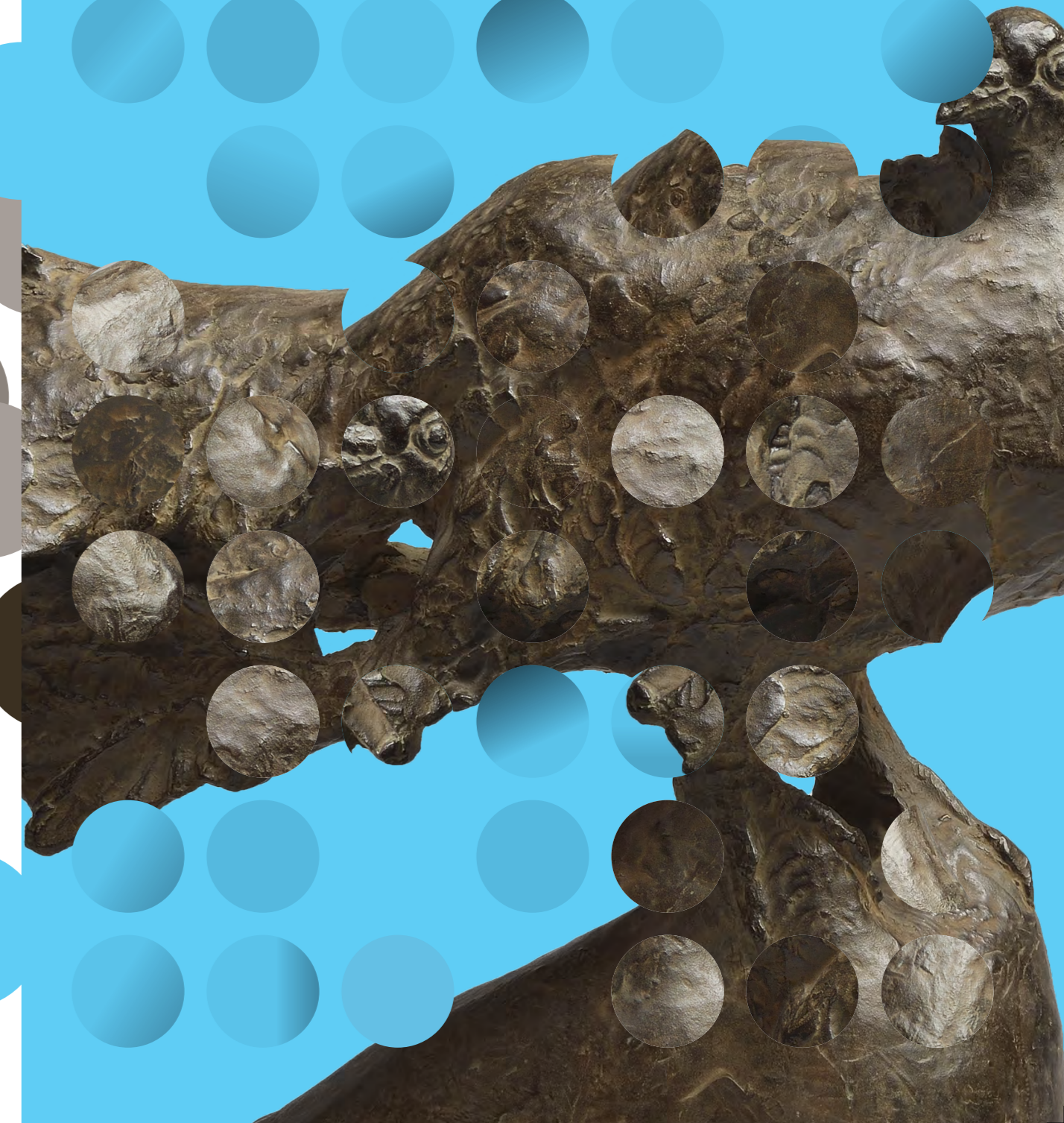
発行日：2022年11月11日

無断転載・複製を禁じます。



リーフレットオンライン版

さわって楽しむ 柳原義達の作品



さわって楽しむために・鑑賞のポイント

柳原の手のあとを感じてみよう —作家の気持ちになる—

柳原は粘土を使って物のかたちを作る^{そぞう}塑造の技法で作品を作りました。いずれの作品も、もともとヘラややすりで粘土を^か掻き取り、指で整えながら作られています。彫刻に手をあてながら、柳原の手の動きに思いをはせてみましょう。

※粘土は^{こわ}壊れやすいため、粘土像は最終的にブロンズ（青銅）などの金属に^{ちゅうぞう}鑄造されます。
みなさんがさわっているのはブロンズ像です。

モデルの体の動きを感じてみよう —ねじれた動き—

柳原は、^{しょうがい}生涯にわたり、生命をいかに表現するかを追求した作家でした。学生時代にフランスの彫刻家ロダンの考えに^{えいきょう}影響を受けた柳原は、人が立ち、姿勢を変える時に、前後左右に体の重心が動くことにとりわけ関心を持っていました。柳原作品の人物像の多くが、^{らせん}螺旋のように体をねじらせたり、片足に重心をかけて傾いたりしているのはこのためです。作品を手で包み、この動きを感じてみましょう。

作風の変化を感じよう —かたち・表現—

柳原は若くして彫刻家として成功しましたが、^{さい}40歳ごろには制作に^{なや}悩むようになり、1953年から4年間、フランスに彫刻を学び直しに行きました。ここで柳原は、モデルを平面的に捉えるのではなく、^{とら}立体的に捉えようと思ったといいます。この結果、柳原は、細かいところまで目に見える通りに再現することをやめ、より簡単な形で^{ねこ}人や猫を表現するようになりました。作風の変化を、ぜひさわって感じてください。

特設コーナー「さわって楽しむ 柳原義達の作品」リーフレット

編集：三重県立美術館 高曾由子 橋本三奈 鈴木麻里子

発行：美術館のアクセシビリティ向上推進事業実行委員会 三重県立美術館

デザイン：桑田知明

印刷：サンメッセ株式会社

発行日：2022年11月11日

無断転載・複製を禁じます。



リーフレットオンライン版

さわって楽しむ 柳原義達の作品

